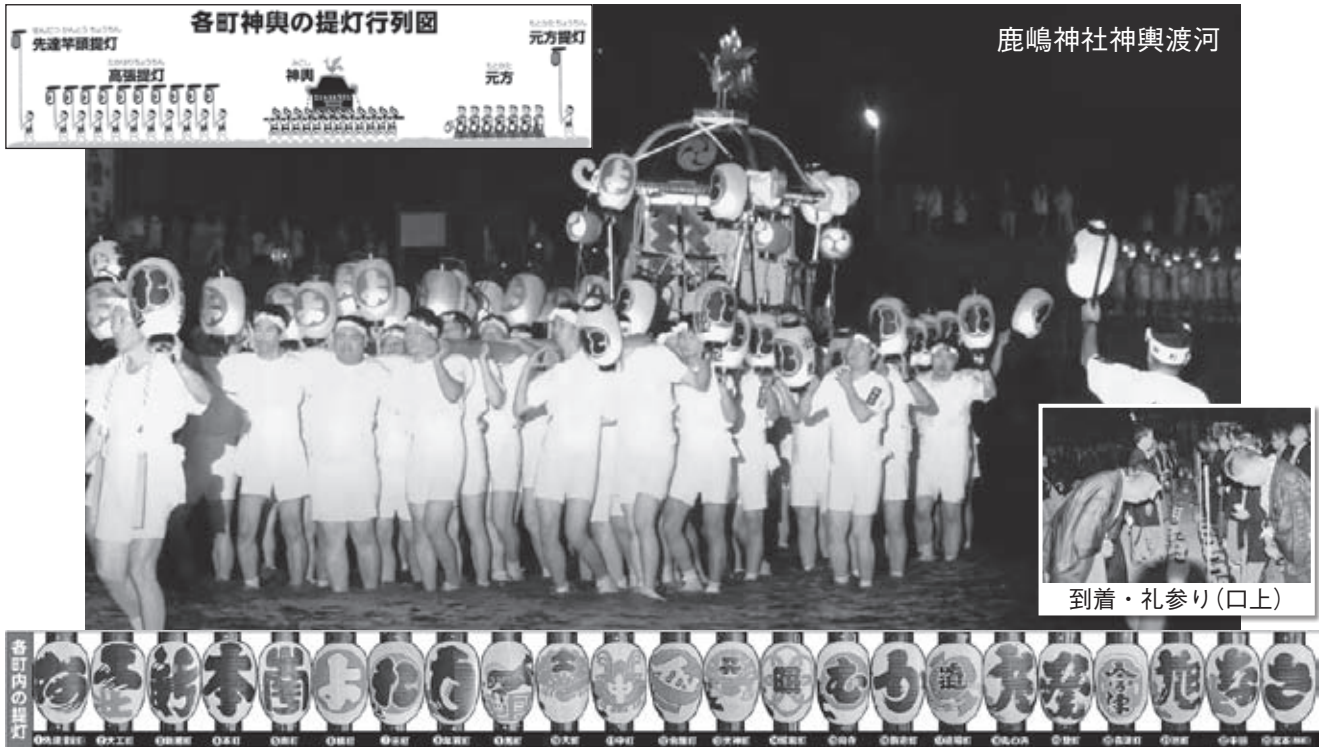


松 風

福島県公立学校退職校長会

郷土の祭り紹介…………… 1
 論壇、随想…………… 2
 社会貢献活動の先例に学ぶ…………… 3
 特集・支部は「今」…………… 4
 趣味と生きがい…………… 5
 特色あるクラブ活動、他…………… 6

〒960-8107 福島市浜田町4-16 富士ビル2階
 TEL (024) 534-5411
 FAX (024) 531-1195



鹿嶋神社神輿渡河

到着・礼参り(口上)

白河提灯祭り

郷土の祭り紹介

西白河支部 角 田 彰三郎

白河生まれ、白河育ちの私にとって幼い頃から慣れ親しんだ祭りがある。それが「白河提灯祭り」である。正式には、「鹿嶋神社祭礼渡御祭」といい、一年おきの九月中旬の三日間開催される。

着などに際しては、まるで武家社会を垣間見るような口上が守られており、あたくも大行列のように、厳肅な雰囲気の中にも、勇壮に祭りが進行されるのである。

祭りの由来は、江戸時代の明暦三年(一六五七年)に、白河藩主本多忠義より鹿嶋神社に神輿の寄進があったことに始まる。以来約三百五十年にわたり受け継がれ、白河を代表する祭礼として人々に親しまれている。

祭りに参加できるのは、旧城下の町で、現在は二十三町が参加している。各町では、それぞれ文字を圖案化した町印の入った提灯を有しており、それは町のシンボルとして、他町の提灯を倒すことはもちろん、触れることもタブーとされ、提灯を傷つけられることは町の名誉を傷つけられたことにもなり、ことさら提灯を大事にしてきた。この祭りが「提灯祭り」と呼ばれてきた由来はここにもある。

昼は、旧城下町で町内の子ども達による屋台や山車の引き回しが行われ、夜は、旧奥州街道沿いを鹿嶋神社の神輿が各町内の二千数百個もの提灯で飾られた行列によって送迎される神輿渡御が行われる。

今年の祭りも新型コロナウイルスの感染拡大の影響で実施が危ぶまれているが、開催されたならば、私も紋付き袴を身に着けて祭りを盛り上げていきたい。(参考文献・白河歴史の手引きれきしら)

最大の特徴は、各町の格式と厳格な作法により執り行われる様々な儀式にあり、別名「儀式祭り」とも呼ばれている。現在でも行列の出発、到

本会支部長を仰せつかり五年（一年は代理）となるが、この間に二十名以上の本会会員の告別式に参列し弔辞を読んだ。私は、支部長の役職は告別式で逝かれた方の人生経歴を報告し、参列者と共に故人を惜しむことと心がけ対応してきた。弔辞は、会員本人が退職後、年後に現職時・退職後の履歴をA4一枚程にまとめ提出し、それをもとに事務局長が原稿を作成する。弔辞

を読み故人の人生を懐かしむ時間は貴重である。失礼ながら、何人かの思出を語らせていただく。E先生は、私が退職した年に支部長をされていて、本会事務局への声をかけていただいた。そのことで、私は庶務・事務局長・副支部長と経験し、退職後のささやかなボランティアができた感謝をしていたが、ある時、

論壇

弔辞朗読の彼方に：

副会長 伊藤末吉



「伊藤君達に活動をお願いするよ。」と、ぼつりと言われた。そして、支部長を次の方に依頼し、数年後にお亡くなりになった。多分、あの一言を発したときには、己の病魔と闘っていたのだろう。

一年ほどで亡くなったが、息子さんが「父はヘビースモーカーで、自分の健康は大丈夫と楽観をしていた。最後は人との協働を大事にして、と言われた。」と、涙ながらに話された。Y先生は、私よりも三歳若い副支部長で、ご逝去の連絡に愕然とした。手術をした噂はあったが、本人は自分の体調を話すことはなく活動していた。今年四月

の支部総会の折りに、閉会の言葉で口ごもったが、あの時は本人の様々な思いが溢れたのだろう。私は後輩に先立たれたことが辛く、弔辞の表現でも悩み、この文章もその衝撃から抜けるために書くことにした。

の妻方の墓所に入った。私と妻は、桜が咲く四月に蔵王が見える墓石の前で、ご夫妻の平安を祈った。悲しい体験談ばかりを綴ったが、このようなことは本会の宿命である。この文章が、皆さんの日常生活で人生のゴールを意識し、気力を奮い起こす糧となることを願う。筆を置きたい。

随想

石川町歴史民俗資料館 調査員として



石川支部 小針 良仁

退職をして九年目になります。三年前から石川町の歴史民俗資料館（以下資料館）で仕事をしています。石川地方は、「日本三大ペグマタイト産地」として全国的に有名で、石川町を含むあぶくま高地からは約百五十種類の鉱物が確認されています。このようなことから石川町の資料館は、鉱物・岩石を中心に展示しています。さて、私の仕事の内容は、見学者に館内にある鉱物・岩石等の説明や資料館に保管されている鉱物に保管される資料の整備と鉱山跡の調査が主になっています。私の趣味は、中学生の時から続けている鉱物採集なので、仕事と趣味がマツ

ちしているため大変やりがいがあります。今現在、特に力を入れて取り組んでいるのは、鉱山跡を特定することです。町内に石英や長石を採掘していた鉱山が百数十箇所あったといわれていますが、時とともに鉱山がなくなってしまう。そのため、鉱山跡を調査し、報告書として残す作業をしています。資料館が開館して今年で四十七年目になり、老朽化がかなり進んでいることなどから、移転することが決まりました。資料館の取蔵庫に入り切れない貴重なものが、町内の施設に分散されて保管されているのが現状なので、内心ほつとしていて、場所です。

石川町は鉱物ばかりでなく自由民権発祥の地でもあり、これもまた多くの資料が残されています。こちらも現在整備が進んでいます。来年の春頃には、町内の新たな施設で公開する予定なので、是非足を運んでいただきたいです。

社会貢献活動の先例に学ぶ

株式会社アポロガス会長 篠木 雄司氏に聞く(1)

令和四年八月一日、福島市飯坂町八景にある株式会社アポロガスで、佐藤俊市郎会長と広報担当二瓶が出席し、取材の目的等を伝え、株式会社アポロガス会長の篠木雄司(しのぎゆうじ)氏に話を聞いた。

アポロガスは経済産業省「おもてなし経営企業選」、中小企業庁「がんばる中小企業300社」に選ばれた。また、日刊工業新聞「優秀経営者顕彰震災復興支援賞」、日経BP社「人づくり大賞2016優秀賞」、ひとを大切にしている経営学会「日本でいちばん大切にしたい会社大賞」など数多く表彰を受けている。社員の教育・育成(「人づくり」)を大切に、社会貢献活動においても地域から高く評価されており、「日本一の元気エネルギー供給企業」を目指している。

それらの内容を今回と次号の二回に分けて紹介する。

◆四十年前の恩返し

《篠木氏》社長三年目に東日本大震災・原発事故。会社設立(四社が合併)当時から民報さんにお世話になって、子どもの時から、初代社長と記者との間でかわした「いつか将来会社が大きくなったら、新聞に大きく全面広告を出してもらえばいいから」という約束を聞いていました。震災後だったので余裕があったわけでもありませんが、平成二十三年七月一日、四十年目の節目に福島民報新聞に



「四十年前の恩返し 拜啓 四十年前の駆け出し記者様へ」という全面広告を載せ、恩返しができました。

その広告の中で、震災の時はだれも経験したことのない状況だったので、それを打破する、地域を元気にするエネルギーを供給できる会社になりたいと思い、私たちは「福島の皆様に元気エネルギーを供給し続ける」ことを宣言しました。

◆社訓は「和と利」

《篠木氏》四社が合併してできた会社なので、会社ができるときから「和と利」が社訓になっています。和が大切で、また利益がでないとうまくいかないの、和と利の両輪でいくのが大切だと考えています。

私が社長になってから、震災・原発事故があったので、福島に元気を、笑顔をとどけるように、今の社長も引き継いで、「福島が笑えば世界が笑う」を合言葉・理念にしています。

最新のプロモーションビデオ「福島が笑えば世界が笑う」をダンススタジオVIVIDの協力を得て作成

しました。ユーチューブで見ることができません。

◆『こころの幻燈会』

この本は震災・原発事故の年の十一月十一日に発行しました。福島の子どもたち、世界の子どもたち中心に募集した四百十二作品を集めた詩集です。

相手を想うところは無尽蔵の元気エネルギーで、無限の可能性を持っていきます。「フクシマ」は「原発事故・放射能」ではなく、「ふくしま」はそこに住む人の「あたたかい心」にあふれ、日本のそして世界中の「あたたかい心」が集まりそれを実感させてくれる街」の代名詞にしたいという想いで作りしました。

これが正解かどうかその時点ではわからないけれども、自分で責任を持って発行しました。

◆平成の飛梅

これは中学校一年の道徳の教科書に載っている「平成の飛梅プロジェクト」の話です。福島高校の卒業生OB(篠木氏ら)が、東日本大震災の被災地である福島を勇気づけるため、震災

後仮設校舎で学ぶ生徒を励ますようと、太宰府天満宮の門外不出の御神木である梅の若木を母校に贈りたいと考え、行動しました。大勢の人の善意でこのプロジェクトが実現しました。平成の飛梅五本(「福高の暁」と名付けられた)が毎年花を咲かせています。(松風第一八六号に続く)



【プロフィール】しのぎゆうじ 株式会社アポロガス社長兼元気エネルギー供給本部長。生き方のインフラ教育研究所所長。福島市教育委員。昭和37年5月生まれ。慶応大卒。昭和61年東邦銀行入社。平成5年アポロガスに入社。平成19年代表取締役社長に就任。令和元年5月会長に就任、生き方のインフラ教育研究所所長に就任。著書に「福島の小さなガス会社がやっていった世界最先端の社員教育」(株式会社あさ出版)などがある。また、大学、企業等を中心に数多く講演を行っている。

特集 支部は「今」

〜支部の現状と課題〜

福島支部

一 支部の現状

会員数は、四月一日現在、四百一名で、新入会員は、ここ数年、十一名から十六名の入会となつている。

また、クラブは九クラブあるが、それぞれ例会を開催し、趣味や特技を生かしながら会員の親睦や交流を図っている。しかしながら、クラブ員の高齢化もあり、クラブ長も徐々に、次の世代が受け継ぐ組織も出始めている。なお、クラブへの加入も最近少なく、新たな魅力発信も求められている。

二 特色ある取組

○福島市教育委員会の「スクールアシスタント活用事業」への協力
令和三年度は、六名の方が登録され、低学年児童への「読み聞かせ」活動、学級活動の授業への指導助言、現職教育に対する指導助言等を実施し、三校に延べ九回の支援を行っている。

また、県北域内の県立高校の統廃合も進み、今春は福島中央と保原の定時制がふくしま新世高校として開校し、日課も十九時二十五分に終わる夕間部と、二十一時五分に終わる夜間部があり、生徒が自分の生活の

○「子どもの安全確保」対策活動を、各地域で、それぞれの立場で実施している。

三 地区内(福島市・川俣町)の学校等の状況

コロナ禍の中、各学校とも学校の規模等に応じ、オンライン授業、時間差登校、各種行事の工夫などとして、感染予防に最大の対策を講じて運営にあたっている。

小・中学校の児童生徒数及び学校数は、十年度二万七千二百九十名、八十五校が、二十二年(五月一日現在)は一万九千八百八名、六十八校に減少している。児童生徒数は今後も減少傾向にあり、複式学級増や学級数の減少と、それに伴い教員数も減少が懸念されている。

また、県北域内の県立高校の統廃合も進み、今春は福島中央と保原の定時制がふくしま新世高校として開校し、日課も十九時二十五分に終わる夕間部と、二十一時五分に終わる夜間部があり、生徒が自分の生活の

ペースに合わせて選択できるように工夫されている。

四 課題や今後の展望

年金受給年齢の引き上げや価値観の多様化等により、再任用や講師での勤務者の増加や本支部のクラブ活動以外の分野で、自分を高めていく方もおり、ここ数年加入を保留されている方が毎年数名おられる。

退職予定同期の会との懇談会の工夫等により、加入の促進に繋げていきたい。

(支部長 鈴木 昭雄)



フォトクラブ・T写真展にて

双葉支部

双葉の灯は消さない

〜あれから10年、今とこれから〜

双葉支部の原発事故避難記録「双葉の灯は消さない」は、避難生活が五年となったのを機に、会員相互の安否と避難の現状を確認

しようと、当時の江尻邦夫支部長さんのもと、庶務という立場で発刊のお手伝いをさせて頂きました。この時の発刊はまた、「東日本大震災」という名に隠れ、「東京電力福島第一原子力発電所の事故」という「記憶」が薄れていつていることに危機感を覚え、「記録」に残す必要があると考えたからでもあります。この記録集は、各会員へはもちろんのこと、県本部と県内の各支部にも送付しましたので、その後の多くのご支援に繋がったものと思っております。特に、平成二十九年の全速連総会・理事会でこの冊子をご披露された当時の小野孝雄会長さんや現在の佐藤俊市郎会長さんには感謝の言葉もありません。

「記憶は、とこしえに存在し更新される。荒れた田や大地は再び耕せる。だが、記憶が一旦途切れたら、過去の財産を失ってしまふ。だから、記録することが大事なのである。」と何かの本で読んだことがあります。

今回、「双葉の灯は消さない」の「第二集」を発刊することにしたのは、「東京電力福島第一原子力発電所の事故」から「十年目」という節目を迎え、着の身目に見えないものに怯えながら避難した会員の十年後を「記録」に残し、会員相互で確認し合おうと思ったからです。文章の字数制限もせず、絵や写真を依頼しませんでした。中には奥様や娘さんが聞き取って代筆されてご寄稿された方もおられました。全会員からの寄稿は叶いませんでした。十年という時の流れのせいだけではないと残念でなりません。が、双葉支部の状況を少しでもお分かり頂ければ幸いです。

また、これまでのご支援に対し心から感謝申し上げます。これからも温かく見守って頂けるようお願い申し上げます。

(支部長 鈴木 恵一)



また、これまでのご支援に対し心から感謝申し上げます。これからも温かく見守って頂けるようお願い申し上げます。

(支部長 鈴木 恵一)

趣味と生きがい

茶会に参加して



岩瀬支部
高倉さだ子

三十数年ぶりに茶道の稽古を再開しました。

稽古中はまるで学生、若返っています。季節の移ろいや茶道の奥深さに触れ、新鮮な心持ちで稽古をしております。教えていただいたお点前は、あつという間に虫食い状態ですが、回数でカバーし、マイペースで稽古できることに幸せを感じております。

先日、満九十四歳の方の茶会がありました。今もお元気でお弟子さんに稽古をつけていらっしやいます。「お茶とお菓子、お道具だけがご馳走ではありません。このお部屋、ここから見えるお庭、景色、出会い、すべてご馳走です。」と、芯のあるお声で説明された後に、軽やかな身のこなしで、お茶を自分の方に運ん

でくださいました。思いもよらないことで、まるで魔法をかけられた感じでした。恐る恐る一口、続いてゆっくりと残りをいただきました。まるで深い味わいでした。パワーに満ちた先生の振舞いもご馳走でした。茶道を愛し、たゆまぬ努力で極めてこられたお姿でした。趣味と生きがいはつながるものだと再認識させられ、心に沁みる素敵なお茶会でした。稽古への思いが広く深くなった気がいたします。

これからは、「趣味はお茶です。」と、はつきり言えるよう精進し続け、いつか自分らしいお茶会でご馳走したいなあと、心ときめいた貴重なひとときでした。

小名浜沖防波堤



田村支部
佐藤 道拓

今日もおお気に入り

釣り場に立った。真っ赤な日の出を拝めた。「今日は釣れるぞ」とすでに皮算用。私の釣りは、磯竿でテトラの先一〇mほどに仕掛けを落とし、ちょんちょんと誘いを入れる。そこに大物がガバツと喰いつく。かつてはそうだった。ここ数年釣果がめつきり減った。

今日も二時間ほど当たりがなく腹も減った頃合い、まずまずのカサゴが釣れた。置き竿にしておにぎりにかぶりつこうとしたその時、五・三mの竿がグオングオンと大きくしなった。金色に輝く大きなメバルだった。またおにぎりを食べ始めた。またおにぎりを食べオン。今度はムラソイ。そしてクロソイ、またムラソイとどれも大型ばかり。食事をとる暇もない。あれだけ誘っても反応もなかったのに。ただ置いた竿で、それも短時間で。時にこんな不本意な大漁もある。置き竿にイセエビがかかっていたこともあった。

次回、誘いを入れない釣り方で爆釣する我が姿を妄想している自分がすでにい



る。これが私の趣味と生きがいとなっている。

大震災をきっかけに



いわき支部
高羽 博樹

上げることに専念しました。今までに経験したことがない商売です。若い頃から趣味でやっていた木工でしたが、商品としてお客様に販売するとなると、加工から塗装まで一から勉強のやり直しでした。

ある晩、驚いたことに亡くなった父が、木製のバックを抱いて夢に出てきたのです。そのバックがヒントになり、改良を加え、女性がおしゃれで使いやすいバックが売れ筋の商品になりました。

この十年の間に、三回の木工展を開催することができ、本当に貴重な経験をさせていただきました。七十一歳になった時、将来の片付けを考え、木工から手を引くことにしました。

とは言え、じっとしていられない私。現在は、以前からやりたかった「切り絵」に挑戦中です。拡大鏡をかけながらの細かい作業ですが、毎日楽しく紙を刻んでいます。いつの日か皆様に見えていただける日を夢みて。

特色あるクラブ活動

五七五を愛して

伊達支部

二十数年前には、十名ほどの会員を誇っていた当クラブも、遂に三本の矢のみとなってしまいました。しかし、結束は固く、年二回の行事は欠かさず実施しております。

これまでの活動の結果、クラブ員の減少に歯止めがかからないこと、男性のみの活動から抜け出せなかったことの二点が、今後に課題として残るようです。

三年前に「俳句クラブ」に「川柳」「短歌」を加え、「五七五クラブ」として包括的に活動を推進しております。その作品を次に紹介しておこうと思います。

〈俳句〉 飯坂俳句大会大賞

みちのくの庄司戻しの

桜咲く

中村 洋平

〈川柳〉 五七五クラブ長賞

幼な児に大人振り向く

初言葉

丹治 陸雄

〈短歌〉

愛の三十一文字
コンクール全国第三位

半世紀共に生き来て

やうやくに恋人岬に

今立たんとす

(五七五クラブ 津村 栄)



郡山支部

功績調査委員会の活動

私たちが郡山支部の功績調査委員会は、他支部同様、会員の春秋叙勲や高齢者叙勲、死亡時の叙位叙勲の申請の際に必要な書類作成に対応するために、「功績調査」及び「履歴書」の本会への預託活動を推進しています。今年度の活動も、昨年度に引き続きコロナ禍のため委員会の開催は必要最小限にとどめながら、郡山市教委と連携し活

動を進めています。

しかし、本会では近年預託されない方が多数おられるのが実情でした。また、ご長寿の方が増え、高齢者叙勲の申請が増加してきて大変喜ばしいのですが、それゆえ辞退される方も増えてきました。そこで、まだ預託されていない方への申請の意思確認作業を行い、早めの預託を勧めるとともに、現職の小・中学校校長会の協力の下、全校長先生方への説明会を開催してきました。その結果、新様式での預託も進んでいます。

ただ、まだ意思表示されない方が、令和四年五月現在、会員四百七名中七十八名いますので、支部広報を活用するなどして、さらに預託活動を推進していきます。

(委員長 武藤 公夫)



郡山市教委との話し合い

福島県公立学校退職校長会

ホームページの開設について

福島県公立学校退職校長会のホームページを八月一日に開設しました。試験的運用の段階ですが、ぜひご覧ください。今後、各支部会員の皆様のご協力を得て内容の充実を図っていきたいと思います。

なお、会員専用は、会員の皆様の交流の場となるように考えています。

詳細については九月の支部長会で説明いたします。

①トップ画面の写真は現在十六支部掲載。今後各支部より写真の提供を受けて差し替えます。

②左側(各支部)は、支部の会報や活動などを掲載していく予定です。

③随時、更新記事の掲載、差し替え、削除を行います。

福島県公立学校退職校長会
fukushima koritsu gakkō taisyoku kochokai
〒990-8107 福島市浜田町4-16 富士ビル602階 福島県小・中学校校長会事務局内

HOME 会長挨拶 活動方針 主要行事 会報 組織 会員専用 リンク集

事務局
福島支部
伊達支部
安達支部
郡山支部
岩瀬支部
石川支部
田村支部
西白河支部
東白川支部
北会津支部
耶麻支部
真沼支部
南会津支部
相馬支部
双葉支部
いわき支部

本会のよみ会則

URL ⇒ <http://fukushima-taisyoku-kochokai.org>